

第2部 市民が考える生物多様性



三島次郎（団長）挨拶

今日は大勢の方にお集り戴き、30年の歴史を噛みしめている。
川崎の過去と現在と未来を生物の目で見つめるような気持ちでいていただきたい。



山田友之（川崎市青少年科学館長）挨拶

30周年記念にシンポジウムというのは流石、調査団らしいと思う。
30年前に博物館登録をして川崎の自然の調査を始めた。この調査に当たったボランティアがかわさき自然調査団であり、以来、科学館とは連携して様々な事業を行っている。



若宮崇令（元川崎市青少年科学館館長）挨拶

30年前に初めて行った調査はタンポポの分布調査であった。それから、植物班、コケ・キノコ班、動物班、野鳥班、地質班、昆虫班、水生昆虫班の7つの班に分かれて活動を開始した。
市民の皆さんのパワーに驚き、これからの博物館は市民とのパートナーシップによって運営していかなければいけないと考えた。
その皆さんが、こんなシンポジウムを開けるまでに成長したことを嬉しく思っている。
現在、茅野市の八ヶ岳総合博物館の館長をしている。
長野県内の博物館関係の人にとって、川崎市青少年科学館にいたと言うと、「三島次郎先生が運営協議会の委員長をしている博物館ですね。凄い先生が関わってくれているのですね。」と言われる。その三島先生が代表を引き受けてくれているのがかわさき自然調査団である。
これからも、両者がお互いを盛り立てるようにして、益々発展していくことを願う。